米子市埋蔵文化財センターたより

第５４号　　２０２４年９月

日南町　大原川平山たたら跡　製鉄炉を検出

５月から発掘調査を実施しています日南町阿毘縁に所在する大原川平山たたら跡では、中世の製鉄炉１基と製鉄の際に生じた不純物を廃棄した排滓場１ヶ所を検出しました。

製　鉄　炉

製鉄炉は、たたら製鉄の原料となる砂鉄を採取するために丘陵を大きく削り取った後に造成されたと考えられる平坦面に位置し、尾根の斜面に平行して東西方向を向いてつくられています。製鉄炉の本体は壊されて残っていませんでしたが、その下の地下構造が残っていました。地下構造（炉床）は、長さ 5.8m、幅 1.0m、深さ 0.55mの長楕円形で、中には地中からの湿気を防ぎ、炉内を高温に保つために本来は粉状の炭が敷きつめられていたと考えられますが、この炭の層内にもぐりこんだ鉄を取り出すために、かきまわされており、地下構造の下層に炭の層が僅かに残っているだけでした。また、製鉄炉の東側から製鉄の際に生じた不純物である鉄滓が多く出土したことから、製鉄炉の東側から鉄を取り出したと考えられます。

地下構造の形態は、島根県に多く見られるもので、島根県の製鉄炉の影響を受けたと考えられます。鳥取県内では現在のところ、このような形態の製鉄炉は確認されておりません。本遺跡は印賀川上流域の左岸に位置しており、同じ印賀川を下った日野町福長に所在する 16 世紀の福長下モノ原遺跡の製鉄炉は、形態的に岡山県北部の影響を受けながらも日野郡独自で展開した形態となっており、比較的に近い距離にありながらも製鉄炉の形態が異なり、交流圏の違いを強く反映していると考えられます。（高橋）

古　代　体　験　出　前　講　座

ー　勾玉づくり・石包丁づくり・火起こし体験　ー

埋蔵文化財センターでは、毎年、小学校の夏休み期間中に市内の小学校や民間の学童保育に勾玉づくりや石包丁づくり、火起こし体験などの出前講座を行っています。

子供たちは古代体験をたいへん楽しみにしてくれており、とても熱心に取り組んでいます。

勾玉や石包丁を削るのに力が必要で手が痛くなったり、石を削った粉で手が真っ白になり、またその粉で遊んだりしながら作品を完成させ、子供達にとっては夏休みの楽しい思い出となっていることでしょう。

子供たちは各々個性的な自分だけの勾玉や石包丁をつくり、「宝物にする。」、「お母さんにプレゼントする。」、「もっとつくりたい。」などという子もいます。なかには、お礼の手紙をいただくこともあり、職員はたいへん励みになります。

なお、埋蔵文化財センターでは、夏休み以外でも勾玉づくりや石包丁づくり、火起こし体験、弓矢体験の出前講座を受け付けています。子供会や小学校の学年行事、公民館活動、職場のリクレーションなど、職員が出向きますので、お問い合わせください。（高橋）

勾玉づくりの様子

子供がつくった勾玉

子供達からのお礼の手紙

遺跡シリーズ　早田第１遺跡　（わさだだいいちいせき）

鶴田荒神ノ峯遺跡　（つるたこうじんのみねいせき）

早田第１遺跡は、南部町上中谷に所在し、法勝寺川に面した西向きの河岸段丘上に立地しています。

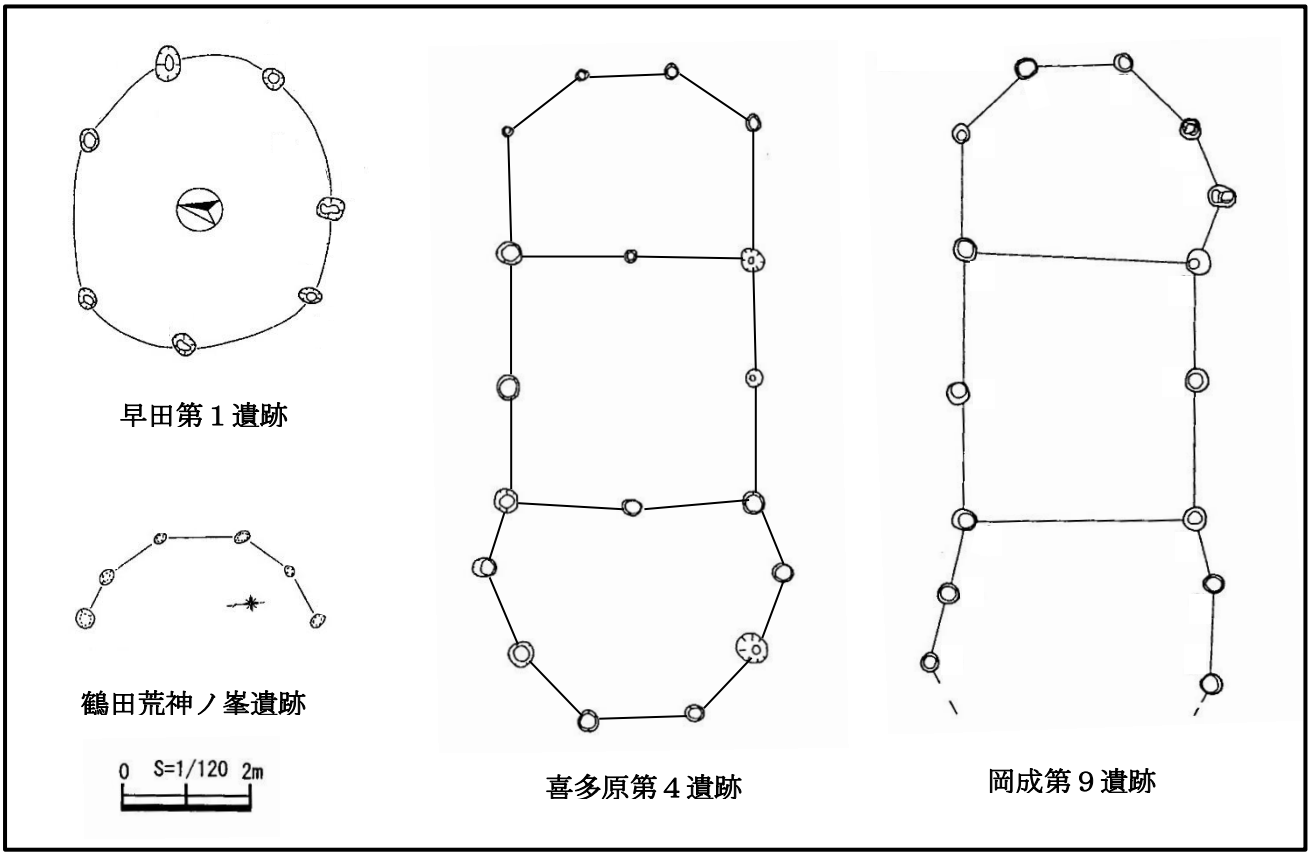
中山間地域総合整備事業に伴い、平成 14 年に西伯町（現南部町）教育委員会によって発掘調査が行われ、縄文時代早期末から前期初頭の平地式住居が見つかっています。

鶴田荒神ノ峯遺跡は、南部町鶴田に所在し、日野川西岸の山稜台地上に立地しています。

主要地方道溝口伯太線改良工事に伴い、平成６年から７年にかけて財団法人鳥取県教育文化財団（現公益財団法人鳥取県教育文化財団）によって発掘調査が行われ、縄文時代晩期の平地式住居が見つかっています。

平地式住居は、竪穴住居のように竪穴を掘らず、地面に柱穴を掘って、地上の上屋を組んだだけの住居で、県内ではまだ類例が少なく、その中でも早田第１遺跡の平地式住居は縄文時代早期にさかのぼるたいへん貴重な資料です。また、県内では円形の平地式住居が多いですが、米子市の喜多原第４遺跡と岡成第９遺跡では、１間×２間の主屋の両側に半円形に柱穴が並ぶ張り出しがある大型の住居が見つかっており、集落内の共同施設ではないかと考えられています。

縄文時代の住居として竪穴住居もありますが、県内では 16 遺跡 33 例しか見つかっておらず、今後の調査の増加により縄文時代の住居の構造や集落の様相が解明されることが期待されます。（高橋）



平　地　式　住　居

センター・資料館日誌

7月24日（水）東大人文・淀江プロジェクトのメンバー６名が上淀廃寺跡出土の壁画と塑像の見学で来館。

7月26日（金）～８月27日（火）
市内小学校・南部町・民間の学童保育に勾玉づくり、石包丁づくりなどの古代体験を実施。

８月　３日（土）米子市児童文化センターとの連携事業「考古学者になろう」を実施。

８月14日（水）米子市公会堂主催の「米子市公会堂夏祭り」に、わたあめを出店。

８月21日（水）遠州名城の会に米子城跡のガイドを実施。

９月　１日（日）「朗読とピアノ・歌でつづる高木東六パリ留学日記」に協力。

９月　３日（火）奈良大学生が埋蔵文化財センターの特別収蔵庫の環境調査で来館。

９月　５日（木）文化庁の地主調整官が上淀廃寺跡出土の壁画の返却で来館。

９月16日（月）米子市文化財団　カルチャー・フェスティバル2024で「米子城跡や城下町から見つかったもの展」を実施。

９月21日（土）・22日（日）
鳥取大学の高田教授と島根大学の岩本准教授が普段寺古墳出土土器の写真撮影のため写場を使用。

９月23日（月）米子市立山陰歴史館・米子市公会堂主催の「米子歴史絵巻」に協力。

９月29日（日）第１回考古学講演会「国史跡　尾高城跡について」を実施。

編 集 後 記

今年は「10年に一度の暑さ」といわれ、例年よりかなり気温が高い日が続いています。

小学校の夏休み期間は、連日、学童保育へ出向いて勾玉づくりや石包丁づくりなどの古代体験を実施していることと、この期間は、酷暑で熱中症になる危険性が非常に高いため、発掘調査は中断しています。

私が子供の頃（約40年前）は気温が30度を越えることは一夏に２、３回しかありませんでしたが、現在は気温が３５度を越えるのが当たり前となり、地球温暖化の深刻さを思い知らされます。９月になっても夏のような暑さが続き、夏バテ気味になっています。早く涼しくなってくれないかと待ちわびています。

発行日　令和６年９月３０日
発行者　米子市埋蔵文化財センター
指定管理者（一財）米子市文化財団
電　話　０８５９－２６－０４５５
Eメール　yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp